

# 学生起業 パソコン舞台

夢ふっせん  
兵庫2000年

企業・人

6

それは自らの研究生活の必要に迫られて誕生した。

マウス操作で、「これは取っておきたい」というホームページ(HIP)などの情報を簡単に保存できる情報整理ソフト「シンクブック」。いわばパソコン版のスクラップブック。西宮市内でソフトウェア企画開発会社「メディアポリス」を営む松岡広宣さん(左)が企画・開発した。HIP上で四千円で作られ、すでに八百人が購入した。

## 社員は2人

あふれる情報を整理できないかと考え、このソフトのアイデア

アが浮かんだ。通産省関連のビジネスプランコンテストに企画書を送ると、奨励賞を受賞。

「企画書だけに終わらせたくな」との思いが強まり、「ベンチャー」と名の付くセミナーなどに意欲的に参加し、人脈づくりに励んだ。県中小企業振興公社が学生らに対し会社設立時に直接出資する制度を知り、「シンクブック」の企画を申し込むと、五百万円の融資が決まった。

# 電子クーパーン活用

## 大学生の就職

前年4月、私立の4年制大学で就職希望者のうち就職内定率を調査している。調査した35大学のうち29校から回答が返ってきた。1999年10月末時点の内定率は43.9%。98年同期比でマイナス2%で、過去最悪となった。同課は「例年より大人数が少なかった」と分析している。Pは、「メディアポリス」がhttp://www.mediapolic e.com、「サイバーCity/Kobe」がhttp://www.cybercitykobe.com。

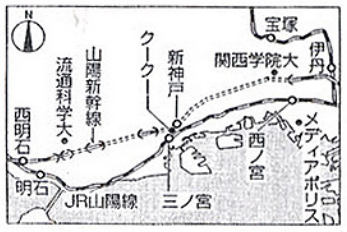
「言外の二人だけ。営業は松岡さんが一人でこなす。西宮市内の自宅は阪神大震災でほぼ全壊した。ポロポロになった町を目の当たりにして、街づくりの研究者になりたいと考えるようになった。研究者から経営者へ進む道は変わったが、「震災復興に役立ちたい」との思いは変わらない。「きつと非効率な情報処理が原因で復興が遅れている面があると思う。だから役に立つ自信はある」と松岡さん。いずれはいろんな情報整理ソフトを開発したいとい

「いつも夜」  
昨年十一月、神戸市中心部の商店街など三十六団体・企業が共同で、HIP「サイバーCity/KOBE」を開発した。千五百三十五店舗が紹介され、画面上のクーパーン券を印字して店に持っていき、クーポンが受けられるサービスなどがあがる。このHIPを作ったのは、一年前まで流通科学大学の大学院生だった鎌塚大興さん(左)が代表を務めるベータンチャー企業「クークー」だ。国内で初めて電子クーパーンを始めたとのふれ込みで、社名は

「情報一番に」  
学んでいたのはベンチャー企業の経営論。大学院に通っていた一昨六月から、西宮市などが開く「西宮市起業家支援センター」に通った。県の公社から投資を受けられるため、その年の十一月まで修士論文と並行して事業化計画書の作成に追われた。昨年三月に二年間の修士課程で大学院を卒業、同時に会社を設立した。



ラジオの音楽が流れる中、パソコンに向かって仕事をする「クークー」社員ら。部屋の電気は深夜まで消えない神戸市中央区琴ノ緒町5丁目



クーパーンの圏」を略した。JR三ノ宮駅から歩いて数分のマンション。表札もない一室は、毎日九時から深夜まで電気

「インターネット市場は動きが速く、一番くつかかむは、ない。情報を早くつかかむは、泥臭い営業に強くなければ」と鎌塚さん。平日は、スーツ姿で三宮かいわいの商店へ飛び込み営業に駆け回る。不況の中、宣伝費は真っ先に削られる経費の一つで、利益はほとんどないという。

社員は、鎌塚さんと升さん、大学院の後輩、大学時代の同級生の四人。「いろいろな人と会ふことで、いつも教えられていく。責任は重いが、思うようにできるのが魅力。いつでも学生らしい若さを持ち続けている」と鎌塚さんは笑った。